



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年11月1日

11月号・第166号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



ならやまの秋

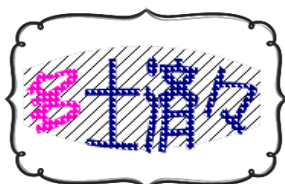
Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

多土済々 (辻本 信一さん)	1	俳句百景	12
Monthly Repo.ならやま	2	癒しの散歩道 & ならやま茶論	13
里山の今	3・4・5	ギャラリーならやま	14
景観サポーター・報告	6	ならやまプロジェクト	15
9月・月例研修会・報告	7	字遊字感・旬菜旬食	16
自然教室チームだより	8	行事案内 part1	17
「鳥」シリーズ	9	行事案内 part2 & part3	18.19
やさしい病害虫講座	10	幹事会報告	20
青垣春秋	11	仲間入り・奈良学クイズ・編集後記	21



明敏なヤングマン 辻本 信一 さん

顧問 川井 秀夫

明朗闊達、当意即妙。

我々男性陣の中で最年少の若さがトレードマークで、今春から当会の事務局長として藤田体制の要として活躍していただいている。



私との出会いは定かな記憶は無いのですが、2012年。シニア18期を修了後当会に入会され、サークル「のらの会」の二次会の歌合戦で大変なエンターティナーがやって来たと驚いた事を憶えております。体躯堂々、礼儀正しく、ジョークもお手のもの、語学も堪能とくれば、大いに意を強くしたものです。

その彼が、突然生死に係わる大病に冒され長期療養となり、早期回復を念じておりましたが、幸い彼の強靱な体力と精神力が病魔を退け、特に愛妻 愛子さんの看護の力が奇跡に繋がった様に思います。後日、一生女房どものには頭が上がらないとご本人の述懐がありました。

闘病中に詠まれた21首の短歌を拝見。その中の一首をご披露して置きます。

耐え難き不安を胸に閉じ込めて
顔には出さぬ妻の優しさ

奥様も当会のおしどり会員として行事に参画され、チェコの方が来訪の折には架け橋としてご助力願っております。妻女は才女。信一さん 幸せですなァ〜。

チェコと言えば現役の頃、商社マンとして二年間現地で新会社の設立に活躍され、チェコの方とも交友が深く、この6月には世界的なチェコのバリトン歌手を招聘されて我々を楽しませて呉れました。

ご出身は大阪・東住吉区を生活拠点として、「大阪」とお仰有いますが、実家は奈良・奥飛鳥に近い稲淵との事。遣隋使で大化の改新に影響を与えた学問僧 南淵 請安の顕彰碑があるお近くで、私の想像ながら遠く縄文人か弥生人の古い家系かなと思っております。

誕生日が6月12日。奇しくも乙巳の変が起きた日に当たります。ひょっとすると蘇我入鹿に係わる豪族の末裔かも・・・。



退職後は奈良市に居を移され、俗から聖へ特に自然界に関与され、シニア大ではインプリの研修グループに籍を置かれ、来春から当会の「自然教室チーム」のリーダーとして、ふるさと奈良に対する思い入れは人一倍のご様子です。

当会も来年15周年を迎えます。取り纏め役としてリーダーシップをお願いする事になりますが、体調に留意され素晴らしい記念行事になる事を期待しております。

一言苦言ですが、雄弁饒舌家には時に言葉が滑る事があります。「怪我の功名」と言う諺もありますが、大局を踏まえてご活躍を括目しております。失礼の点はご免。

Monthly Repo. **ならやま**

八木 順一

9月25日(金) 臨時活動 曇一時晴れ 32名

参加者は32名と少なめだが、久しぶりに一日作業に汗を流す。各Gは溜まった仕事を捌くのに必死。里山Gは経団連関係の間伐、景観Gは彩りの森を中心に草刈り、エコGは秋・冬野菜の準備等で、一日は瞬間に過ぎる。打ち合わせでは、ほぼ90%終わった経団連関係の間伐の後片付けに3月まで月一回、全員で取り組むことの確認等がされた。

10月1日(木) 活動 曇り後雨 59名+12名

景観サポーター基礎講座実施。サポーター8名と県関係者4名の参加だった。里山Gはこの指導に、エコGは夏野菜の撤去とダイコンの種まきに励む。また景観Gは第五地区の草刈りを中心に夏花の撤去とシオン等の移植を行う。しかし降雨のため作業は午前で打ち切り。午後の景観サポーター基礎講座では当会役員を交え、会の沿革や活動の成果、その他諸課題についても1時間余り熱心に話し合いが持たれた。また、今日から新入会員が一名。



10月8日(木) 活動 晴れ 55名

久しぶりの好天の下での快適な作業。特に今日は経団連関連地区の倒木処理に午前中全員で取り組む。あと3月まで6回の倒木処理が予定されているが好天に恵まれ作業が捗ることを願う。

里山Gは午後からも倒木の処理。エコGは野菜の種まきや移植、景観Gは入り口付近の草刈りや花畑の垣根作りを中心に取り組む。パトは第4コース巡回に。また、打ち合わせでは、10月のイベント関係事業や11月の刈払機講習会への参加要請のほか、カエンダケの注意喚起が行われる。



10月15日(木) 活動 晴れ 67名+2名

昼食にサンマや山菜おこわ等が供され、好評。打ち合わせでは来週の稲刈りや本日のチップー作業への協力要請が行われ、順調に作業も進んだ。また11月の刈払機講習会への参加も促された。

里山Gは林野庁関係の樹木の伐採に、エコGは稲刈り用の竹の支柱の準備に汗を流す。景観Gは草刈りのほか、水生生物調査や山野草園の整地と第一コースの巡回に出る。午後からは、17日の芋ほりイベントの最終的な話し合いが行われる。シニアから2名の実習生。



里山グループだより

青木幸子

◆コナラの育苗日記

ならやまの「ナラ枯れ」対策として、ここ数年防除、拡散防止に労力を割いてきたが、いよいよ被害が深刻な状況となり、あの小さなカシノナガキクイムシの集団には勝てないことを悟らされた。

市街地の里地・里山保全とナラ枯れ対策として経団連自然保護基金 2015 年度支援プロジェクトの助成を受け、「部分皆伐」をして萌芽更新を期待しつつ、コナラを植樹して次の世代を育てることになった。「竹の子平」に夥しい数の実生の苗を見つけ、数十本

抜き取り育苗することに。第三駐車場の東に二畝の苗床を作り、4月9日植込み



をする。木村さんが育てられた苗も植えた。毎週のように溝からバケツで水を汲み上げ、何回も往復して水やりをしたが、4月～5月は晴天続きで、約半分が枯れたり虫害に遭ったりした。6月4日、阿部さんが用意された黒ポットに 30 本の苗を植え3つ目の畝を作った。数回補植をし、その後6月に雨が多かったこともあり、今ではしっかり根付いているのでホッとしている。

9月16日から日本森林ボランティア協会の熟練者による「部分皆伐」が始まった。



この苗を植えるのはいつ頃だろうか、大きくなるのは何年先だろうか。とても見届けることは出来ないが、歴史的風土特別保存地区にマッチした素晴らしい里山になることを願っている。



エコファームだより

富井忠雄

エコファームグループでは、9月は曇り時々雨のためほとんど活動が

出来なかった中で、夏物野菜の撤去と秋冬物野菜、白菜、大根（YRくらま、聖護院、丸大根）、日野菜、小かぶ、人参などの種まきをしました。



後半では、大蒜の植え付け、玉葱、水菜、レタス、チンゲン菜、大和まな、菜花、ホウレン草などの種まきを行い収穫に向かっての準備をしました。

また、10月17日のイベント、佐保台小学校・会員家族を交えた芋ほり体験の為に、去る5月14日にサツマイモ（鳴門金時、紅はるか）など植えた芋の試し掘りをした。例年になく美味しい芋の収穫が期待され、子どもたち、会員家族に楽しんでもらいました。



6月4日に、佐保台小5年生たちが、上手に植えてくれた稲苗が、途中草刈り、水入れなどを行い、立派に育ちました。10月22日には、この黒米の刈り取りをしました。

今年は雨に悩まされましたが、実りの秋になりそうで、子どもたちや会員の皆様の喜ぶ顔を思い浮かべています。

パトロール班レポ

有元康人

10月のレポートは1コースの状況を紹介しします。1コースは里山林の外周を回るコースですが、今回は大きなテーマも無く山道の状況確認とゴミ拾いを行いました。

観察路に入ると少し気温が下がり、澄んだ空気の中を散策していると、気持ちが落ち着いて来るのを感じました。

まだ紅葉には早い観察路を進んでいくと、コバノガズミやノブドウが赤や紫の実をタワワに付けて実りの秋を表現していたり、ツルアリドオシ(一両)や千両が花木とは少し違う控えめにオレンジ色の実



を付けていたり、高野ボウキの小さな白い花、サイクリングロード横ではシャジン類と思われるかわいい釣鐘状の薄紫色の花がひっそりと咲いていて、素晴らしい秋を表現しています。

山道ではナラ枯れが多くみられる中、コナラやクヌギなどのドングリがたくさん見受けられ次の生命の準備が始まっています。

ナラ枯れが多い中では落木は少なく1か所枝が散乱していたのでその場で除去しました。

今回のパトロールは研修生の松本さん、千戴さんも参加され楽しく廻ってきましたが、その中で薪等の燃料リサイクルが無くなった現在での里山の意義、里山の将来展望などの質問を受けました。現状維持とか楽しく利用していますとも答えられず、問題が大きすぎて本部スタッフに振りました。目的を持って活動を行うためには、後でどのように回答されたのか内容が知りたいと思っています。



景観グループレポ

福田美伸

◆草刈り隊

太田隊長以下、約10名の草刈精鋭部隊です。雨にも負けず、風にも負けず、そして夏の暑さにも・・・先週刈ったところが、今週30cmも伸びるとは。又、余りにも、広い面積ですが、遣り甲斐のあるエンドレスな作業をしております。

しかし、刈り終わった後を見れば。達成感、満足感が、心地よい疲れに変わることも、精鋭部隊全員が感じております。欲求不満を感じている方は、一度是非、トライを！スカッとします。

第5地区:3mの鬼笹藪が蕎麦、果樹畑に・・・。劇的な変化でした。よくやっとなり、嬉しくなりました。あと10年！柑橘、栗、柿、グミが1トン(?)、蕎麦が1トン(?)、毎年収穫できます。精鋭部隊全員は確信しております。「先輩はあの世から、是非」。

さらに、第5地区上の孟宗竹の間伐:光を入れた結果。全く、竹の子が出なかったところに、沢山の竹の子が出て来たではないですか！全員が、興奮しました。やはり、光合成を行う植物には、光は絶対必要条件であると！本当に、よく分かりました。

過日、刈り払い機の盗難がありました。どんな人間が持って行ったのか？全員がショックを受けました。残念です。これを機会に、備品管理のより徹底した措置を執られ、搬出・収納に時間を費やしていますが、しっかりやりたいと思います。

私たち草刈精鋭部隊全員は、今後も事故のないよう、十分に注意を払い、「ならやま」の環境保全・維持のために、全力で草を刈り続けることを「奈良・人と自然の会：「Association of People and Nature in Nara」に誓います。そして乾杯！



ならやま虫だより

菊川年明

◆オオカマキリ

秋はカマキリがよく目に付く。ならやまでよく見かけるカマキリの中で、一番貫禄のあるカマキリはオオカマキリである。体色は緑色型と褐色型があり、オスは大体が褐色型である。肉食で主に昆虫を餌にしている。アブラゼミを抱えてかぶりついていることもある。

カマキリ類は交尾中にメスがオスを食べてしまうと言われているが、オスもそのことを心得ていて、交尾中にメスの餌食になるものはそれほど多くはないらしい。

人が近づいたり、手出しをしたりすると鎌のような前脚を構えて顔を振り向け、睨みつけるような仕草をする。睨むように感じるのは複眼の中にある黒い点が瞳孔のように見え、見つめられているように感じるからである。この黒い点は偽瞳孔と言ひ、カマキリ類に共通の特殊な複眼の構造によるもので、どの角度から見ても見つめられているように見えるという。トンボの複眼にも偽瞳孔がある。

オオカマキリの卵囊はよく目に付く。枯れスキの茎や小枝などに麩をちぎったような感じのものが付いていたら、それが本種の卵囊である。茎あるいは小枝ごと持ち帰って植木鉢にでも挿しておくとして5月頃に孵化し、無数と言えるほどたくさんの幼虫が出てくる。カマキリは不完全変態の昆虫であるから、幼虫は翅こそないものの成虫とほぼ同じような体形である。糸くずのような1センチ足らずのチビ助が鎌（前脚）をふりふり親虫と同じような格好で歩く。

(写真は孵化後間もなくの幼虫)



ならやま花だより

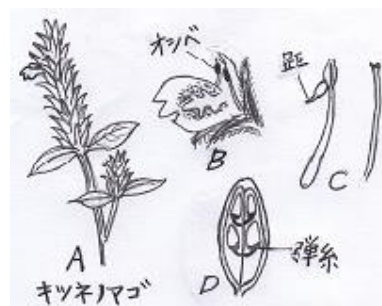
山中笙子

10月15日、足下でバリバリとどんぐり踏む音がして、ガマズミやカマツ

カの鮮やかな赤い実が視界に入ってくる秋のならやま。地味な小花をつけた草たちも、ささやかに秋を彩る。

キツネノマゴ (キツネノマゴ科)

茎は四角、ピンクの小さな舌状花が短穂にまばらに咲く。果実（蒴果）は4個、熟すとはじけ飛ぶ（1mほども）。ハナバチによる虫媒花。ルーペで覗くも分かりにくい、調べてみると面白い。



A花の姿：がくと苞が混みいつてる。

B花：おしべ2本が上唇に張りつく。

Cおしべとめしべ：葯室2つ、

下の葯室に距がつく。この距は花粉が虫に付きやすくする為の装置でしょうか。

D・蒴果：4個の種子には弾き飛ばす装置、弾糸がある。

キツネノマゴも色々と工夫をしているのですね。

【草花】ミゾソバ、サデクサ、イボクサ、ミズガヤツリ、ヒメクグ、ヒメジソ、ヒルガオ、ヒヨドリバナ、キツネノマゴ、カナムグラ、ベニバナバロギク、アメリカセンダングサ、アキノノゲシ、チヂミザサ、ツリガネニンジン、ワレモコウ、イヌホオズキ、ホシアサガオ、フユノハナワラビ
【草の実】ヤブマメ、ヤブミョウガ、ヒナタイノコズチ、ヒカゲイノコズチ

【木の花】ヤマハギ、コウヤボウキ

【木の実】シバグリ、カキ、コシアブラ、コバノガマズミ、カマツカ、イヌツゲ、ソヨゴ、サルトリイバラ、ノイバラ

【花壇】ダンゴギク、シュウメイギク、ワタ、コスモス、ハイビスカスローゼル、キンギョソウ、カンナ、ダリヤ、ノコンギク、フジバカマ、ミズヒキ

奈良県景観サポーター

受け入れ 実施報告

10月1日(木)、今年で4回目となる奈良県景観サポーター基礎講習の実習受け入れを当会ならやまベースキャンプにて行いました。

当初予定されていた9月17日(木)は雨のため中止。背水の陣で臨んだ今回は関係者の皆様の気迫勝ち。今にも泣き出しそうな曇り空の下、それでも何とか降雨にさらされる事無く、無事里山における実習を実施する事が出来ました。

参加者は、奈良県各地から応募され参加された



受講生9名、奈良県景観・自然環境課から職員の方が6名、合計15名の方が参加されました。

当会の景観サポーター基礎講習実習受け入れは、3年前の平成24年に遡ります。「景観サポーター」の景観づくり体験を当会で引き受け、参加者の皆さんと景観作りの苦労話も含め意見交換をする事を目的に実施され、これまでに66名の方がこの活動に参加され景観サポーターとして県に登録されております。

まず初めに、本日の作業内容の概要説明、安全

に対する講話を聴いて頂き、その後3班に分れ里山に入山。決められたエリアにて里山保全活動



としての樹木の伐採作業を経験して頂きました。各班3~4名+県職員1名の編成にて、緊張した面持ちの中、ソヨゴを中心に手ノコ、剪定鋏等を使い伐採整理作業に従事して頂きました。

既にご経験が有り手際よく切り進める方、意識しながらもツイツイのこぎりの刃先角度が思う方

向に定まらず四苦八苦する方、人それぞれ。

女性の方も3名含まれておりましたが男性陣に交じり堂々と作業を進めておられました。

里山作業を体験し、心地よい汗を流した後は、ベー



スキャンプへの帰路、当会が進めているナラ枯れ対策、萌芽実験の現場も見て頂き、環境・景観保全の難しさ、重要性を実感して頂きました。

昼食時には、当会自慢の具沢山の味噌汁と(当会を代表する料理人)池田さんの手による特別料理「鯛の握りずし」をご賞味頂きました。

その後残された時間を利用し、当会役員並びに設立当時から役員経験者の皆さんとこれまでの苦労話や楽しかった思い出話等をご歓談頂きました。皆様一様に当会の広範な活動内容と規模の大きさに驚かれておりました。

これからのヒントとなるアドバイスをと言う事で、実戦的な質問多く、全ての問題に解決を求めるが如く、果ては行政に対する注文まで多岐に渡りました。

中には、大学就学中の受講生の方もいらっしゃり、お互いの世代に対する期待感、世代を超える会話に花が咲きました。



天候を気にしながら進めた今回の活動も気が付けば知らぬ間に予定の3時を迎え、どなたも満足そうな表情で今回の講習を修了され、ベースキャンプを後にされました。

里山グループの皆様はじめ今回の受講生受け入れにご協力頂きました会員の皆さんに心よりお礼申し上げます。

“有難う御座いました”

(事務局:辻本信一)

9月 月例研修会

「高野山 町石道を歩く。(後半)」

- ・日 程 ; 9月25日(金) 曇り
- ・参加者 ; 9名(男性6名 女性3名)
- ・コース ; 高野山駅 - バス - 根本大塔—大門—矢立—二つ鳥居—古峠—上古沢駅
- ・担 当 ; 境 寺田

◆昨年、南海電鉄「九度山駅」から「慈尊院」、「丹生都比売神社」「古峠」を経て「上古沢駅」まで歩いた後半ルート。今年は、距離は若干長いが下り道ということで「高野山頂」から「上古沢駅」まで逆に歩く距離約11km、実歩行時間約4時間半のコース。

◆数日前からの雨予報で、参加者数が心配されたが9名の方々元気よく「南海なんば駅」に集合。「高野山駅」からバスで、スタート地点のバス停「金堂前」(「根本大塔」・「檀上伽藍」前)到着は10時過ぎ。30分程休憩・参拝後出発。すぐに「町石一番」と看板のかかる「町石」(鎌倉時代に建てられたと云われる高さ3mを超す五輪塔系の石柱の道しるべ)がある。全道180基ある最初の「町石」である。ほどなく高野山の入り口となる「大門」に着く。「大門」左右には、運長作の重要文化財の「金剛力士像」がにらみを利かせている。この像の前で昼食。記念撮影。



高野山大門金剛力士像阿

◆この「大門」の前から、いよいよ「町石道」の山道に入る。ほぼ平坦な樹林中の曲線の一本道を歩く。番号の付く



苔むした「町石」が100m位の間隔で立ち、数えながら進む。大木もそこそこに見られ、俊敏な動きのイワナと思われる魚がかすめる清流の脇を歩く。「鏡石」「押上石」「袈裟掛石」「六地藏」「白蛇の岩」など高野山参拝道らしい遺跡が続く。南海線「紀伊細川駅」に出られる「矢立」の茶店で休憩。雲は厚くあたりは暗いが、天気は持ちそう。皆歩行速度は落ちないでひたすら歩く。ようやく昨年来た「古峠」手前の珍しい「二つ鳥居」のある展望台あずまやに到着。



ここまで4時間強歩き、さすがに皆「歩いた！」という実感。しばし休憩後、分岐点の「古峠」から「上古沢駅」へ向かう下りに行く。里近くなってコンクリート道の急坂があり、雨で濡れていることもあり、「ここが一番気を遣った。」という人が多かった。駅が見える自動車道路に出てホッと一息。ただここは谷状になっていて目指す駅は見上げる高さ。去年同様今年もこの最後の十数分の上りが大変印象的であった。

◆ようやく駅に着いて、「歩き通した」という達成感もあり皆満足げであった。南海難波駅の地下街で、途中下車などをしたお二人を除き、生ジョッキで乾杯。リーダーの境さん「皆健脚だなー」。境リーダー有難うございました。

(寺田 孝)

自然教室チームだより

9月自然観察会
奈良公園巨樹・巨木巡り 実施報告

9月29日(火) 観察日当日は暑くなく寒くなく晴天に恵まれ、絶好の観察日和となりました。

お蔭様で23名の参加者を得て嬉しい悲鳴です。多めに準備したつもりの資料も出発直前には、残りが数部と成り薄氷を踏む思い。それでもギリギリ間に合いホッとしました。

午前10時、リストにある50本近くの巨木、銘木を目差し、近鉄奈良駅行基菩薩像前をイザ出発。

奈良公園と言う身近な場所だけに、ほとんどの方がご存知の場所、樹木と思っておりましたが、意外と初めての方も多く、こちらの説明にもツイツイ熱が入ります。

それにしても、定番の明治天皇のクスノキ、飛火野南側の雷のクスノキはじめ、長い年月を経て毅然とその場に存在する大木を見るたび一種独特の荘厳で新鮮な感覚に襲われます。

他にも、奈良市天然記念物のイチイガシの巨木群、県下一・二を争う巨木の若宮の大楠、イブキを従えた春日大社御神木の杉、と材料には事欠きません。

中でも今回特に皆さんの目を引いたのは、春日野園地東側斜面にそびえるコナラの大木でした。



その立派な姿には皆様からも感嘆の声が聞かれましたが、残念ながらそこにもナラ枯れの被害が見受けられ将来の姿に不安を感じさせました。更に、大きな洞の有るセンダンの巨木が続き、感動と驚きの時間はあっという間に過ぎて行きました。

最後には、葉っぱが合着しラップ状に成った葉を有するイチョウの木を皆様に御紹介。当日の観察会に“花を添える形では無く”、“幸福の葉を添

える形で” 楽しい観察会を終えました。

沢山の皆様のご参加本当に有難う御座いました。次回観察会にも是非多数ご参加下さい！！

(辻本信一)

月ヶ瀬小学校 放課後子ども教室
校庭の自然観察会 実施報告

10月14日(水) すばらしい青空のもとで観察会を実施しました。これで3年目になります。

総人数53名という小さな学校ですが、そのうち19



名が参加してくれました。みんなとても素直な子供たちで、明るく楽しい時を過ごしました。

4つのポイントを取り上げました。1つ目はコノテガシワです。不思議な樹形や葉っぱの形、きれいな白い実やその熟した中味など興味深く観察しました。

2つ目のポイントはクチナシです。名前のいわれを知り、また、黄色の食品着色剤として役に立ってくれることを、実際にタネを水に漬けて理解しました。実を切って中を見たときは驚きでした。

3つ目はカヤツリグサです。二人で蚊帳を吊る仲良し遊びに挑戦しました。指導よろしきを得て、たくさんの子供たちが成功しました。

4つ目はオオバコです。葉っぱの付け根を切って、中の白い糸(維管束)を長く引き出し、人に踏まれても負けない強い草の秘密を知りました。茎を使ったお相撲も楽しみました。

自然工作はクマのペンダント作りです。一生懸命頑張って目、鼻、耳をボンドで付けました。リリヤンを通して出来上がりです。

1時間15分という短い時間でしたが、ゆったりとした気持ちで取り組むことができ、子どもたちも保護者もそしてスタッフも満足した楽しい観察会となりました。(倉田 晃)

鳥シリーズ 11月号

鳥たちの内臓は？ 小田久美子

【鳥は、歯はないけど特別な胃がある】

「鶉のみ」という言葉があるように、鶉だけでなく鳥たちは食べ物を丸飲みします。

鳥には舌はありますが、歯はありません。

では鳥たちは食べたものをどう消化しているのでしょうか。歯が無くても鳥は独特の消化器系が進化しています。

図を見ながら読んで下さい。



(カット 小田)

まず人間(動物)と同じ「**食道**」があります。次に「**そ嚢**」という一時的に食べ物を貯める袋があります。

私は産まれたての文鳥を何度も育てたことがあります。羽根が生えない時には「そ嚢」が見えていて、破裂するかと思うくらい一杯食べるのにビックリしました。

食べたら直ぐ眠ります。そこも人間(動物)の赤ちゃんと同じです。

その次が「胃」ですが、前半部は「**腺胃**」といって食べたものに胃液を混ぜるところです。

ここは人間(動物)も同じで、胃液には、胃酸や消化酵素が含まれています。鳥は歯が無い分その働きがとても強力です。

「胃」の後半部は、コリコリした食感でお父さんたちにお酒のおつまみとして人気の「**砂肝**」と呼ぶものがありますが、**肝**では無く「**筋胃**」という分厚い筋肉のことなのです。

穀物など硬い種を多く食べる鳥では、小石や砂を飲み込んで「筋胃」に貯め、食べ物をすり潰します。なので、普通は「**砂嚢**」と呼んでいます。嚢は袋のことです。そして、人間(動物)も同じ「**十二指腸**」へと続きます

そもそも、鳥の祖先は恐竜だったことはご存知と思いますが。恐竜には立派な歯がありました。

何故その子孫の鳥は歯が無いのでしょうか。

それは、恐竜が飛ぶようになった時、空気抵抗を少なくするために頭部を軽くする必要があったからだと考えられています。

十二指腸から終点の「**肛門**」へ。

そこも人間(動物)と同じ。

食べたら体を軽くする為飛ぶ前に〇〇します。鳥の排出孔は一つ。

これも重量を減らす知恵です。



(写真 田中陽子)

やさしい病害虫講座 19

「野菜や草木が枯れるのは？」

木村 裕

今年第5地区で栽培しているソバの一部がパッチ状に枯れていることはソバクラブのメンバーはすでにご存知のことと思いますが、なぜ枯れたのでしょうか？

原因として、種の播きかたが悪かった、水が溜まった、鳥が種をつまみ食いをした、昨年と同じ場所で栽培した、などの答えが返ってくることでしょう。

現場を見ますと、種はちゃんと生えていますので、種が悪いとか、播きかたが悪かったとはいえません。よく見ると株の根元が腐っていて簡単に引き抜きました。

本当の原因は微生物（病原菌）が茎の地際に近い部分に入り込み、茎を腐らしたのが原因です。私たちと同じようにソバも病気になります。

最初は1～数株の発生だったと思います。普段の年ならその段階で止まり被害も分からずにすんだことでしょう。今年は幸か不幸か雨天の日が多かったことが病原菌の活躍を後押し、一気に周りの株に広がっていったと想定されます。これは疫病という病気で雨が多いと発生が多くなります。

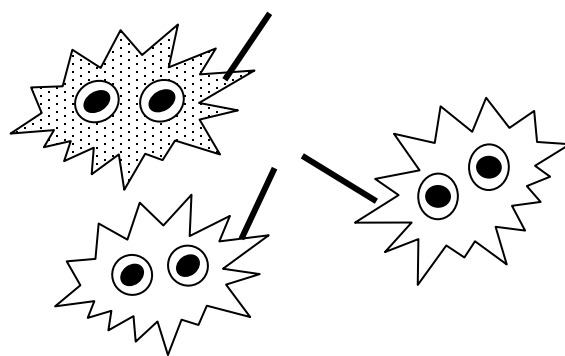
この病気はトマト、ピーマン、タバコなどにもよく発生します。発生してからの対策は、被害株を抜き取って圃場の外に持ち出して処分する以外にはないでしょう。また花の日日草（ピンカ）ではごく普通に発生します。茎の中ほどの部分が黒くなって腐り、そこから先の部分が萎れて枯れます。被害部の少し下の部分から切り取って処分します。プランタ栽培なら雨が直接当たらない場所に移動させるのもよい予防法です。

キュウリの葉がある日突然萎れて枯れるのは蔓割れ病という病気で茎の地際部分がだめになっています。直ぐに引き抜いて隣の株への伝染源にならないようにしましょう。予防的には継ぎ木苗を使うのがベターですが、苗のお値段もそれなりに高くなります。

トマト、ナスでは葉がじわじわ萎れて枯れる青枯れ病が恐ろしい病気です。この菌は作物が枯れても土の中に居残り、翌年までじっと待っていますので困り者です。被害株は直ぐに抜き取って処分します。抜き取った株を畑の隅に放置される方がおられますが、これは病原菌に「また戻って来いよ」と言っているようなもので注意しましょう。その畑では翌年も発生する確率が高いので、これらの野菜栽培はしない方がよいでしょう。

夏場に草花が突然萎れて枯れ、株元に白いカビがいっぱい付着しているのは菌核病です。カビの他に黄褐色～赤褐色の丸い虫の糞のような物もいっぱい見つかります。気温と湿度が高く、風通しが悪いと発生しやすいです。被害株とともに周りの土も掘り取って処分してください。虫の糞のような物も全て。

野菜や花の種をまいて、本葉が出始めた頃に根元からばたばた倒れるのは苗立ち枯れ病です。土の中に菌が潜んでいて、柔らかくて美味しそうな苗をみると大喜びで食らいつくからです。予防的には苗床では古い土を使わず新しい土を使います。発生してからは、オーソサイド水和剤を水に溶かして株元の土に水をやるような感じで播くと新たな発生は止まります。ただし菌の種類によっては効かないものもあります。



株を枯らす病原菌はいつも土の中に住んでいて、好物の野菜が植えられるのを待っています。大歓迎です。予防対策としてはならやまで実行しているような堆肥の投入です。この堆肥の中にはいろいろな微生物が住み着いており、お互いに食い合いをしていますので、悪玉菌を食べてくれることが期待されます。



阿倍仲麻呂を想う

歴史文化クラブ
藤田秀憲

第10次遣唐使船4隻は、天平勝宝五年(753)11月16日、長江下流の蘇州黄泗浦(こうしほ)を出港し帰途についた。

第1船には正使藤原清河と阿倍仲麻呂、第2船に副使大伴古麻呂と鑑真、第3船に副使吉備真備と普照がそれぞれ乗り込んでいた。

藤原清河を送る任を帯びて、36年ぶりに帰国を許された仲麻呂が心の昂揚を詠んだ歌がある。

あまの原ふりさけ見れば春日なる

三笠の山に出でし月かも

(古今和歌集卷9 羈旅(きりよ))

阿倍仲麻呂は、中務大輔 阿倍船守の長男として大和に生れ(698年)、若くして学才を謳われた。

717年第8次遣唐使(多治比縣守)の留学生として入唐し、同期の留学生には吉備真備や玄昉や井真成(734年34才唐で病死)がいた。唐の太学に学び、科挙に合格、唐朝の諸官を歴任し、長安で李白・王維ら文人と交流した。同期の吉備真備、玄昉らは天平6年(734)末、第9次遣唐使(多治比広成)と共に帰国したが、仲麻呂は玄宗皇帝から帰国を許されず唐に留まっていた。

高級官僚で詩人、書家、画家である王維は、仲麻呂(中国名朝衡、晁衡)が日本に帰る際に、送別の宴を開き、互いに「詩」を交わしている。

『送秘書晁監還日本國』 王維

積水不可極	安知滄海東
九州何處遠	萬里若乘空
向國惟看日	歸帆但信風
鰲身映天黑	魚眼射波紅
鄉樹扶桑外	主人孤島中
別離方異域	音信若爲通

『衛命還國作』 朝衡(阿倍仲麻呂)

衛命將辭國	非才忝侍臣
-------	-------

天中戀明主	海外憶慈親
伏奏違金闕	駢駟去玉津
蓬萊鄉路遠	若木故園鄰
西望懷恩日	東歸感義辰
平生一寶劍	留贈結交人

第1船(清河正使、仲麻呂)は、11月21日沖繩に到達。12月6日沖繩を出航するも座礁。自力で離礁したものの東シナ海の季節風に押し流され安南(現在のベトナム)に漂着した。

第2船以下は難航海の末、帰国を果たした。玄宗が出国を禁じた鑑真は、第2船(副使大伴古麻呂)に便乗(密出国)し、坊津(鹿児島坊町秋目浦)に漂着。66才、6度目にして日本への渡航に成功し、我国仏教界に戒律を伝えた。

仲麻呂(晁衡)の海難を伝え聞いた李白は、七言絶句「哭晁卿衡」を作ってその死を嘆き悲しんだといわれている。

『哭晁卿衡』 李白

日本晁卿辞帝都	征帆一片遶蓬壺
明月不歸沈碧海	白雲愁色滿蒼梧

安南に漂着した仲麻呂や清河は、現地人の襲撃を受け、180余人の乗組員のうち生き残ったのが10余人という悲惨な体験をするが、難を逃れ2年後に長安に辿り着いた。

この年、藤原清河迎いの遣唐使(高元度)が渤海経由で到来するが、安祿山の乱(755年)が起こったため、唐朝(肅宗)は行路が危険である事を理由に清河、仲麻呂の帰国を認めなかった。

帰国を断念した仲麻呂は、唐で再び官途に就き、天平宝字5年(761)から6年間ハノイの安南都護府に在任し、天平神護2年(766)安南節度使(正三品)に任じられた。宝龜元年(770)、在唐54年、73才、長安で客死した(贈従二品)。その知らせは、第12次遣唐使(778年)により故国にもたらされた。

切畑や生き生き蕎麦の花盛り 古川祐司
切畑は林を切り開いた畑。今年、蕎麦の花は一段とあざやか。十一月のそば祭に期待が膨らむ。関係各位の努力が実る日が近い。

刀根柿の早々に来て蕎麦の縁 古川祐司
作者は蕎麦Cのリーダー。知人から天理の早世柿が届く。渋抜き、種無しの上品な甘みは日本三大名品として流石。

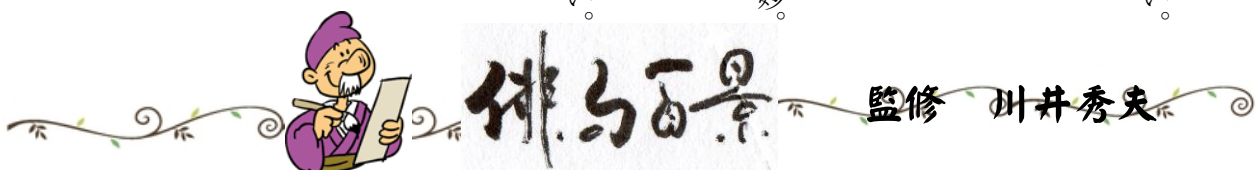
黒米田疎し小水葱も花つけり 小山喜与男
エコファーム自慢の稲田。黒米の豊作が約束されている。稲穂の陰に水草がひそやかに花をつける。写生句として着眼の妙。
うとこなき
くさむら

叢に負けじと猛る南瓜蔓 小山喜与男
昨今、専門書を読破。著しい上達ぶり。ファーマーとしても万能ぶりを発揮されている。作物に対する鋭い観察力が生々しい。
なんかつる

霧の海大和の峰を持ち上げる 西谷範子
スケールの大きい一句。秋の山には雲が霧になって山麓を覆う。「峰を持ち上げる」の措辞が良い。神秘的な景が目に浮かぶ。

満月や雲輝きて千の龍 西谷範子
今年の仲秋の名月は見応え有り。「月に叢雲」と言うが、雲を龍に見立てた空想力にインパクトのある叙情が表出されて佳し。

忽然と粟の実落ちて立ち竦む 八木順一
栗の実ならずとも経験のある状況。秋を実感する一瞬の佇まい。イガイガにお怪我はなかったですか。自然のご挨拶ですか。



監修 川井秀夫

月白の白面の騎士駆ける如 坂東久平
スーパームーンの耽美な姿。天空を駆ける様に西へ。丸で白面の騎士さながらに。月に帰った竹取姫は何処に、空想は果てしない。

大満月ただ嘆息のひと夜かな 坂東久平
こちらは現実に戻り、平城山から生駒山へ名月のひと跨ぎ。ああ、明日は里山へ出勤。眠い眠いロマンチストは辛いね。

ナラ枯れや雑木紅葉と見紛うて 青木幸子
「雑木紅葉」の季語が新鮮。今、近辺の山はナラ枯れ台風の襲来。自然界の変事、人為で打つ手なし。この紅葉は空し虚し。

ふるさとの鯖寿司届く今年米 青木幸子
作者のふる里は播磨。丁度村祭りの頃でしょうか。祝いの品に舌づつみ。新米の味が望郷の思いを増幅する。

心底を見透かすやうに望の月 羽尻 嵩
煌々と月光が胸を刺す。清らかな光に邪念が消える。清新な気分です。明日から頑張るか。名月は人生の反面教師ですか・・・。

藩掘りや凸凹ちゃんのかほ可笑し 羽尻 嵩
俳句ではさつま芋だけ「藩」と表記する。子供たちの風景でしょうか、奇形のイモに笑いの渦。天真爛漫子供は無心で良いですね。俳諧味があつてジリさんらしい軽妙な句。

秋雨の木曜ごとの几帳面 川井秀夫
今年、作業日によく降りました。九月も殆ど雨・雨・雨。几帳面も程々に。ほのぼの基金の売り上げも被害甚大。神よ頼ませ。

晩秋の足音

癒しの散歩道

谷川萬太郎

待ちわびる晩秋の紅にそっと静かに声をかければ
 小さな微笑み返す爽やかな風が頬を優しく撫でる
 やがて訪れむ宴に色鮮やかな衣装を待ち焦がれ
 霞かかりし山裾にはすすきの穂白く光たなびきて
 時雨れる里に耳を澄ませば秋の虫密かに眠りにつく
 肌寒い季節に秋風が散らした花は何処に消えたの



秋雨に消えた青空も涙を拭えば虹の向こうに甦る
 季節の名残惜しむか野原いっぱいには秋桜咲き乱れ
 移り行く秋はやがて薄れゆきて戻らぬ淋しさ滲ませ
 明日に向かい夢仲間と会える喜び携え歩いてゆこう
 志を一つにして明日を動かす希望の力を寄せ合い乍
 目指す面影抱き我等の未来を見つめる空を探そう

ならやま茶論

「さわやかな日差し」

竹本雅昭

翁：おい鹿さんよ、もうちょっと向こうへ行つてくれんか。お前さんの体臭で弁当がまずくなるさかい。

雄鹿：そりゃあすまんこって、そうしてやりたいたがなにしろ年令やさかい面倒でな。それにさっき頭を上下しての挨拶にも、何も貰えんかったさかいな。

翁：ほなしゃあないな。一人で寂しくないか、何か胸の抽出にどっさりあるんやったら聞いたげるよ。

雄鹿：ワシかて昔は群のリーダーでブイブイ言わしとりましたんや、でももう若い者にはかないまへんわ。

翁：一人やったらブツブツ独り言で呆けも早いらしいで、誰かええ相手見付けなはれ。

雄鹿：えらい気遣うてもうておゝきに、お宅らは夫婦でピクニックでつか。

翁：いやいや、今日は愉快的仲間と巨樹・巨木の自然観察や。あそこの大きい楠は何で囲ってんのか知ってるか。

雄鹿：勿論！明治天皇行幸の記念樹ですがな。それはそうと、せっかくの広い芝生にワシらの遠慮ない黒玉のバラ撒きで、芝やフンコロガシにはえゝんやろけど、遊べない飛火野で申し訳ないと思うてます。

翁：そんなこと気にせんでえゝよ、奈良名物の主役や、のんびりしたらえゝがな。ほなまだようけ見んならんから行くわ、元気でな。

雄鹿：おゝきに気をつけて、今度来る時は鹿煎餅頼んませ。



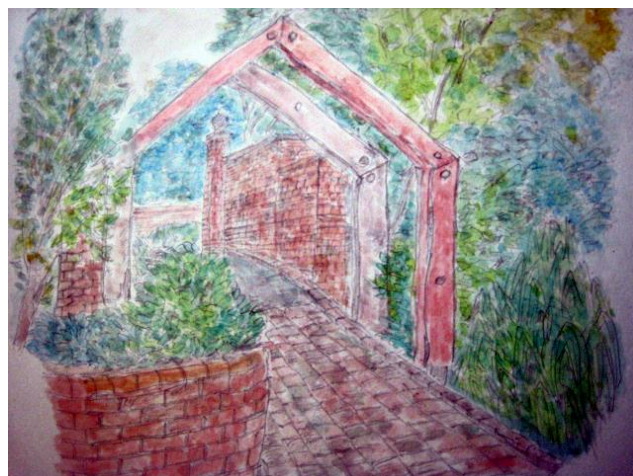
～終わり～



- ① 油彩画 (永井幸次)「晩秋」
- ② 水彩画 (八木順一)「服部緑地にて」
- ③ 墨彩画 (羽尻 嵩)「秋声2」
- ④ 陶 芸 (小島武雄)「仲良し猫」
(白土、黒化粧)



①



②



③



④

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日



11月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)
12月	3 (木) 24 (木)	10 (木)	17 (木)

◆ 場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時

◆ アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発 JR奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



◆ 連絡先：八木 順一

里山 Gr

11/5 一斉山の日（部分皆伐地の整理）

<林野庁関連作業>

カシナガ被害木を中心に整理伐

薪関連作業＝玉伐り・運搬、薪割り、薪棚

12 <林野庁関連作業>

カシナガ被害木を中心に整理伐

薪関連作業＝玉伐り・運搬、薪割り、薪棚

19 <林野庁関連作業>

カシナガ被害木を中心に整理伐

薪関連作業＝玉伐り・運搬、薪割り、薪棚

26 <林野庁関連作業>

椎茸櫛木用コナラ伐採、葉枯し

エコファーム Gr

11/5 一斉山の日（部分皆伐地の整理）、

タマネギ、エンドウ、畑準備

サツマイモ、跡地整備

ミズナ、ミブナ、チンゲンサイ、菜花、移植

12 タマネギ植え付け、エンドウ播種

19 サツマイモ跡地チップ入れ ポカシ肥料作り

26 タマネギ追肥 ポカシ肥料作り 水田除草対策

景観 Gr

11/5 一斉山の日（部分皆伐地の整理）

BC周辺の草刈り

池の整備

紫花菜移植、山野草園柵作り

危険な箇所が発見（橋の木材の腐朽等有り）

12 彩の森竹林伐採&草刈り

水生生物調査、池の整備

チューリップ植付け、春花施肥

観察路の草刈り

19 彩の森竹林伐採&各駐車場の草刈り清掃

池の整備

綿撤去、花菜移植、名札立て

丸太階段の修理更新

26 彩の森&周辺の草刈り／蕎麦祭り

水生生物調査、池の整備

皇帝ダリア撤去、花生姜植替え

コース整備など



字遊 字感

蘇る古代ドラマ

最近、古代王朝ドラマの登場人物達に心をかき乱されている。

きっかけは、私のメタボを心配するかかりつけの医者から散歩を勧められたことだ。家のほど近くに押熊八幡神社というのがあり、散歩コースのメインにした。神社の隣に香坂王子（かごさかのみこ）と忍熊王子（おしくまのみこ）を祭った祠がある。両王子は第14代仲哀天皇の先妻の息子たちである。後妻の子、誉田別皇子（ほむたわけのみこ＝第15代応神天皇）に皇位を奪われると恐れ、帰国する誉田別皇子の母である神功皇后の軍勢と戦い、卑劣な計略のため敗北した兄弟として、記紀に出てくる悲劇の人物である。神功皇后は身重の体で「三韓征伐」に出かけ、凱旋した九州で誉田別皇子を出産した猛女である。そのエピソードの面白さと、忍熊王子が押熊町という地名の由来であるとの説に惹かれ、散歩コースに加えた。押熊町の住人としては次第に、両王子に同情を覚え、反面、神功皇后には敵意が湧き始めた。

一昨年、考古学者森浩一氏が「敗者の古代史」という本を出した。記紀では、忍熊王子は戦に敗れ、追い詰められた近江の瀬田川に身を投げて自殺した、とされている。しかし、実は生きて福井に落ち延び、地元の劔神社の祭神として祭られている、と森氏は唱えている。私は心のうちで喝采したものだ。

私が所属しているある団体が12月、桜井市内にある磐余（いわれ）地区をハイキングする。私は幹事団の1人である。磐余には、飛鳥京が造られる前に都があったと伝えられている。「日本書紀」によると、その都を作ったのは、なんと“宿敵”神功皇后とか。敵地に斬り込むような、怨霊に振り返りに合いそうな、複雑な心境である。

加えて、私の知人で、心優しく、とても素敵なお婦人が、奈良市山陵町に住んでいることがごく最近わかった。町の名が指す陵とは、これまたなんと神功皇后の陵である。彼女の家はその陵の一角にある。心境はもう複雑極まる。あ、あ。

（吉川 利文）

旬菜旬食

ならやまエコファーム料理

*小芋のいか詰

*小芋巾着しぼり

*小芋のヨーグルト和え



◆材料（2人分）

小芋10個（1ヶ直径3センチ位）・枝豆15さや・生するめいか1匹・バジルの葉少々（無ければ大葉でも良い。）

調味料；醤油・砂糖・酒・味醂・片栗粉

◆作り方

- ・小芋10個は皮を剥いて、蒸すか茹でるかして柔らかくなったらすりこぎでつぶして、マッシュルーム状にしておく。半分はいか詰用、あと半分は巾着しぼりとヨーグルト和え。
- ・枝豆は湯がいて、さやから出しておく。

*小芋のいか詰

いかのワタと足を取り、いかの胴にすりつぶした小芋を詰め、口を爪楊枝で止める。鍋に水カップ1、醤油大匙4・砂糖、酒、味醂（大匙各2）を入れ沸騰したら、小芋を詰めたいかを入れ10分位煮る（足も2本位ずつに切り一緒に煮る）。いかが冷めたら輪切りにして、枝豆を上飾り、残った煮汁を片栗粉でとろみをつけて上からかける。

*小芋の茶巾絞り

小芋を3、4等分してラップで茶巾絞りしてポン酢で食べる（小芋に塩で味付しても良い）。

*小芋のヨーグルト和え

残りの小芋を無糖のヨーグルトで和え、枝豆の残りに、生バジルか大葉の刻んだものをトッピングして食べる。牛乳で伸ばして塩、胡椒で味付けしてスープにしても良い。

（池田 富子）



行事案内 part 1

11月 月例研修会

室池園地の自然観察会

秋色が楽しめる季節です。池あり、森あり、湿生園ありの大阪府民の森室池園地での、秋の自然観察会です。紅葉の進み具合は自然に任せるしかありませんが、いろいろな植物との出会いを楽しみたいと思います。

観察コースは、概ね起伏の少ない道ですが、階段や坂道もあります。ストックがあれば歩きやすいと思います。

皆様のご参加をお待ちしています。



1. 日 時：11月17日(火)
2. 集合場所・時刻：生駒駅改札口9時20分
バス 南口2番乗り場 9時30分乗車
3. 行 程：戎公園下車→生駒縦走歩道堂尾ハイキングコースを観察しながら室池園地へ
12時 昼食 午後の観察
14時 現地出発 バス乗り継ぎ又は徒歩で田原台1丁目バス停へ
○バス代 生駒駅~戎公園 310円
逢坂~田原台1丁目 210円
田原台1丁目~生駒駅 310円
4. 持ち物 弁当、飲み物、観察用具 雨具等(あればストック)



色合いが美しいクサギの実

(担当 自然教室チーム 辻本信一 平岡久美)

歴文クラブ11月度研修会ご案内 紅葉の永源寺と聖武帝遍歴の軌跡を訪ねる

聖武天皇の治世は「咲く花の匂うがごとくいま盛りなり」とその繁栄ぶりが歌われていますが、実態は、即位早々から天変地異、大地震、旱魃に見舞われたり、長屋王冤罪事件、疫病の流行による藤原4兄弟の急死、晩年の藤原広嗣の乱など政権を揺るがす大事件が頻発したりで、帝にとって心の休まることのない時代だったようです。

天平12年8月、藤原広嗣が大宰府で反乱を起こすや、直ちに征討の軍が発せられますが、天皇は難を避けて東国巡行へと出発し、これが遍歴の始まりで、**同年12月には恭仁京へ遷都**、天平16年難波京、同17年紫香楽宮へと転々とし、天平17年5月、4年半振りに平城京へ帰ります。

今回は、その軌跡を辿りながら、歴史の経緯と時代の背景について考えることにいたします。

コースには、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた翌年の元禄3年、こよなく愛した近江の地に隠棲し「幻住庵記」を著した幻住庵や、湖東随一の紅葉の名所永源寺なども加えて、歴史と文学のロマンに浸りながら、晩秋の風情をも楽しみたいと思います。なお、長距離のためバス料金がかさみますので、参加費は3500円となります。



《実施要領》

- ①日程：11月24日(火) 雨天実施
- ②集合：近鉄西大寺駅南口に8時30分
- ③コース：(マイクロバス利用)
西大寺⇒幻住庵⇒永源寺(昼食)⇒紫香楽宮跡⇒聖武帝皇子安積皇子墓⇒恭仁京跡⇒西大寺
- ④費用：3500円+永源寺拝観料
- ⑤人数：27名(事前予約制とします)
- ⑥申込：メール又はFAXで歴文クラブ事務局 古川祐司まで



行事案内 part 2

「春を待つ植物たち」
—初冬の私市植物園の散策—
(自然教室チーム 観察会のご案内)

大阪市立大学付属植物園(私市植物園)を訪ね、春を待つ植物たちの様子を見てみましょう。

12月の初頭なのでまだ果実や紅葉も楽しみ、鳥のさえずりも期待できます。

ミツマタやマンサクなどの初春から花をつける木々たちにとって蕾を用意する忙しい時期です。春の展葉や開花という大事なイベントのため、植物たちは冬の間一生懸命準備しています。植物の生き方を知るうえで冬の植物観察はとても面白いものになります。



どなた様の参加も歓迎です。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

1. 日時：12月2日(水) 10時～14時
2. 集合場所：私市植物園の園内
(交野市私市 2000 TEL-072-891-2059)
入園料 350円が必要です。
3. 持参物：昼食、飲み物、防寒具、雨具、敷物
ルーペ、あれば図鑑など
4. 進め方：特に外部の講師は頼みません。お互いに知っていることや気が付いたことを教えあいながら進みます。
5. 交通の便…一例です。
* JR学研都市線・木津 8:57-(快速)-河内磐船 9:29-(徒歩5分)-京阪電鉄・河内森 9:37-私市 9:39 (徒歩10分)
* 車の場合は駐車料金 500円です。
6. 担当：自然教室 後藤香代子、佐藤庄八
7. 連絡先：自然教室チーム 倉田 晃

◆ 第6回新そば祭り ご案内 ◆

「蕎麦はまだ花でもてなす山路かな」10月、ならやまの笹藪跡に真白な花で楽しませた蕎麦も、黒く熟してきました。懸念された台風にも何とかしのいで、いよいよ収穫の時期を迎えます。

これから4週間、「刈取り」「乾燥」「脱穀」「選別」「製粉」に天候をにらみながら、愛情込めて新蕎麦粉に仕上げていきます。

《ならやま新そば祭り》

秋の収穫祭のトップバッターともいえる「新そば祭り」ですが、今年で6回目になります。

例年通り、蕎麦粉も精進揚げの野菜も、薬味の味大根などすべてが、ならやまの産物です。今年からは燃料も里山の木を使うことにして、ならやまの自然にふさわしい「エコイベント」にしたいと思います。それに、薪を燃やした大釜で一気に茹で上げる新そばの味は、格別のものに違いありません。どうぞご期待ください。

今年も、そば文化クラブ一同が、腕によりをかけた「挽きたて、打ち立て、湯がき立て」の「3立てそば」が売り物です。蕎麦の品種は伝統の「信濃1号」、「挽きぐるみ」の石臼挽の蕎麦粉は、香りと味わいが特徴です。当日は人数の関係で「ぶっかけ蕎麦」となりますが、特別に、新蕎麦の味にこだわりたい方は、皿と蕎麦用猪口をご持参くだされば、「暫待御免」にて対応します。

新そば祭りは、ご参加の皆様の手をお借りして盛り上げたいと思いますので、ご理解とご協力の程よろしく願いいたします。



《実施要領》

- ①日時：11月26日(木) 12時～1時
- ②参加料：300円
- ③持帰り：500円(数量限定です)
- ⑤その他：アルコールは用意しません。
(そば文化クラブ 古川祐司)



行事案内 part 3

1 2月例研予告&忘年会開催案内 京田辺「一休寺」～「甘南備山」、忘年会へ

今年も「忘年ハイキング」と「忘年会」の季節がやってきました。

★ハイキングは、「近鉄新田辺駅」・「JR京田辺駅」をスタートして、一休禅師のお寺で、広い庭園と諸建築物が一見の価値のある「酬恩庵（一休寺）」、「ズイキ神輿」で知られる「棚倉孫神社」、手近なハイキングコースとして親しまれている、緑豊かな「甘南備山（標高221m）」を巡ります。

1.日 程； 12月8日（火）（忘年会開催日）

2.集 合； 近鉄京都線「新田辺駅」10：00

JR「京田辺駅」10：10

近鉄、JR奈良駅から両駅まで30分ほどです。

★忘年会は、近鉄かJRの奈良駅周辺で開催いたします。場所、時間等詳細は一斉メール、12月号会報誌でお知らせいたします。ハイキングのみ、忘年会のみの参加も大歓迎です。

※担当 12月例研 山中、八木、寺田
忘年会 辻本事務局長

◆来年度「月例研修会」行先募集！◆

「月例研修会」年間企画は、今年度中に原案を作り、1月、2月の幹事会に諮ることになっています。会員の皆さんから、広く行先希望を募っています。年12回

①お花見などハイキング ②手近な健康歩こう会 ③植物観察会 ④探鳥会 ⑤史跡等歴史文化探訪 ⑥研修会（夏季、一泊旅行）⑦新春講演会などテーマは多岐にわたっています。担当までご連絡ください。

※ 担当 寺田、羽尻、山中、山本（妙）

ならやま名物 秋の感謝祭 芋煮会のお知らせ！！

鮮やかな紅葉の季節となりました
エコファームの冬の野菜の種蒔きも無事に終わり芽生えの美しさにありがたく思い野菜の成長と収穫を楽しみにしています。

エコファームグループの皆さんが、春から夏にかけて除草、土寄、追肥を心込めて管理してきた里芋『甚五右エ門芋』（ならやま芋）『越前大野芋』などをご賞味していただきたいと思えます。



会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：12月10日（木）12時～

場 所：ならやまベースキャンプ

エコファーム 萱野 勉

歴史クラブ12月度研修会（予告） 秋篠・押熊の古社寺探訪と座学

地元の古社寺と遺跡を探訪し、恒例になりました座学を予定しております。

“燈台もと暗し、身近な街並みに思わぬ発見があります。皆さんのご参加をお待ち致します。

ご期待下さい。



- 1 日 時：12月15日（火） 小雨決行
- 2 集 合：大和西大寺駅北口 AM10：00
- 3 行 程：西大寺（バス）～押熊～籠坂皇子・忍熊王子墓所～押熊八幡神社～常光寺～中山八幡神社～秋篠寺～西大寺北ふれあい会館
- * 4：00頃解散予定
- 4 準 備：弁当不要（西大寺周辺で昼食自由）
- 5 その他：詳細は12月号に掲載いたします。

幹事 古川・永井・川井

平成 27 年・10 月度幹事会報告

日時：平成 27 年 10 月 6 日（火）17:00～20:20

場所：奈良市中部公民館

出席者：幹事 20 名、顧問 2 名（全員出席）

議事：

I. 会長挨拶

- 奈良県より森林環境教育指導者養成研修への参加依頼があった。参加お勧めする。
- 瀬戸内オリーブ基金の 15 周年式典(12/17)、阿部顧問に出席頂く。

II. 会計・事務局より

1. 会員動向並びに報告事項

- 退会 3 名、新入会員 2 名で 1 名減の 150 名。
- 当会名刺繡入りイベントキャップ来年初めの納期にて発注を掛ける。これまでのベストの使用は任意とする。
- 安全講習については安全推進委員を中心に進めて頂く。等々

2. 会計報告

- 資料に基づき収支状況の報告があった。

III. 活動行事関係に関わる課題・懸案・確認事項

1. 3ヶ月スケジュール、当月のスケジュール

- 変更有無の確認を行った。

2. ならやまプロジェクト関係

- 各担当より資料に基づき説明があった。
- 里山 G:一斉山の日は経団連関係作業の後処理、その他の日は林野庁関係中心。
- エコファーム G:ほぼ予定通り
- 景観 G:作業日程の遅れがありずれ込む。
- ビオトープ関係:生物調査一週ずつ先送り
- パトロール関係:概ね予定通り
- 蕎麦刈り取り、稲刈り・脱穀等、応援必要な作業は実態に応じ協力して行く。
- 3ヶ月スケジュールに「一斉山の日」表示。

3. 芋掘りイベント

- 実施プランの説明と協力要請があった。
- 観察路については 8 日に下見の上決定予定。

4. 月例研修会

- ①9月例研高野山町石道ハイクは9名参加で参加者の満足のいく内容であった。

②10月の一泊研修は多数参加を予定していたが、参加数が伸びないため中型バスに変更。

③新春講演会の講師は京大名誉教授の吉村文彦さんに決定。講演テーマは「里山は重要な生態系 - 万葉の里山にマツタケを夢見る - 」
1月23日（土）1時30分から2時間程度。

④H28年度の例研は2月の幹事会で決定したい。

5. 自然教室

①9月9日の佐保台小昆虫観察会は台風で中止。

9月16日の帯解小昆虫観察会は予定通り実施。

②9月29日の奈良公園 巨樹・巨木観察会は23名の参加を得て実施、好評であった。

③10月14日月ヶ瀬小の観察会、10月27日高山～くろんど池の観察会実施、予定通り。

④9月14日自然教室チームの打合せ会にて来年以降の代表を決定した。

6. 歴史研修

①9月例会「二上山博物館と馬見丘陵等の古墳を巡る」は20名参加で実施。（詳細は会報）

②11月は「紅葉の永源寺と聖武帝遍歴の軌跡を訪ねる」を実施予定。

7. GGプロジェクト、キックオフミーティング

- 参加報告があった。

8. 佐保台小学校5年生体験学習について

①稲刈り、はさ掛けは10月22日10時～12時
脱穀、粃摺りは10月29日予定。

9. 経団連皆伐作業進捗状況

①業者委託の伐倒はおおむね済み、あと10数本一斉山の日以後片付け。チップperを活用する。

10. 林野庁整備事業地区内での施業について

第五地区の来年度施業計画づくりで「マツタケ再生事業」を取り上げられないか提案があった。

IV. ネイチャーなら 11月号編集内容

進め方に付き要望と説明がなされた。

V. 周年行事（事業）関係

1. 周年行事企画会議報告

企画会議より中間報告があった。
年内大筋決定、来年以降委員会を立ち上げ実行に移す。

以上



仲間入りしました

このたび入会しました今城宏三（いましろこうぞう）と申します。

活動に初めて参加した「そばの種まき」。いつも走っている「ならやま大通り」の横にこんな土地が開けているのにびっくりするとともに、この活動のパワフルさに驚きました。私のまいた種は育っているのでしょうか？

自由気儘な生活を始めて6年ほどになりますが、写真・テニス・孫とのお付き合い・奥様の運転手等々忙しい日々を送っています「高齢者運転マーク」保有資格者です。しばらくは「初心者マーク」をつけ、そばクラブ皆様の後ろをついて行きたいと考えています。

（今城宏三）



【問1】社殿の中央に媛蹈躰五十鈴姫命がまつられ、両脇に狭井大神と玉櫛姫命が鎮座している神社は、どこでしょうか。

【問2】1888年(明治21)6月5日、東洋美術史家のアーネスト・F・フェノロサは、500名におよぶ聴衆の前で、奈良における宗教、美術、文化の重要性とその保護を訴えます。その際、講演会場として使われた寺院は、どこでしょうか。

【締切】 11月3日(火)

【応募方法】

【景品】旬菜or自然木作品 など

【10月号答え】

【問1】黒岩重吾 【問2】トマト

【問3】多年生

◆ 申し合わせ ◆

※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆ 気持ちの良い季節になり、雨に悩まされた夏場も、すっかり昔の事のように。

日本の高度成長期に、「エコノミックアニマル」として活躍してきた方も多と思います。当時の風潮として、「大きいことは良いことだ」があった。

兎に角、「より多く、より大きく」、拡大を追い求めて懸命に努力した結果、日本は経済大国として、世界に頭角を現すことが出来た。

今は、物量の豊かさだけでは無く、心の豊かさを大事にしようという時代になったように思う。

地球、国、会社、団体など、それぞれに身の丈に合う規模があり、それを越えると、環境破壊や内部崩壊が心配される。

「ならやま」活動の適正規模はこれで良いのであろうか、人数、活動内容、は、大幅に増え、成果も上がっているが、心の豊かさも考えてみたい。

（行々子）

会報誌【ネイチャーなら】・第166号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平